

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	学習院大学
設置者名	学校法人学習院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
法学部	法学科	夜・通信	34			34	13	
	政治学科	夜・通信				34	13	
経済学部	経済学科	夜・通信				34	13	
	経営学科	夜・通信				34	13	
文学部	哲学科	夜・通信				34	13	
	史学科	夜・通信				34	13	
	日本語日本文学科	夜・通信				34	13	
	英語英米文化学科	夜・通信				34	13	
	ドイツ語圏文化学科	夜・通信				34	13	
	フランス語圏文化学科	夜・通信				34	13	
	心理学科	夜・通信				34	13	
	教育学科	夜・通信				34	13	
理学部	物理学科	夜・通信				34	13	
	化学科	夜・通信				34	13	
	数学科	夜・通信			34	13		
	生命科学科	夜・通信			34	13		
国際社会科学部	国際社会科学科	夜・通信			34	13		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/post_10.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	学習院大学
設置者名	学校法人学習院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.gakushuin.ac.jp/ad/kikaku/message/yakuin.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	一般社団法人学習院 桜友会会長	平成29年9月9日 ～令和2年9月8日	卒業生との連携
非常勤	学習院父母会副会長	令和元年5月30日 ～令和2年9月8日	父母・保証人との 連携
(備考) 9名の学外理事のうち2名分のみ記載している。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	学習院大学
設置者名	学校法人学習院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【授業計画(シラバス)の作成過程】 12月中旬～1月下旬にかけて、担当教員にシラバスのWeb入稿を依頼している。 シラバス入力項目の内、「授業概要」「到達目標」「授業内容」「授業方法」「準備学習」「成績評価の方法・基準」「課題等に対するフィードバック」については入力必須項目としており、より具体的、詳細に入力できるような入稿フォーマットを設定している。 また、依頼の際に、シラバス入稿時の注意事項を具体的に盛り込んだ作成要領を渡しており、担当者にはその要点に沿って入力をしてもらっている。 シラバス入稿後、2月上～下旬にかけて、学科の教務委員を中心に第三者確認を行い、シラバス内容の過不足を確認、修正している。</p> <p>【授業計画の作成・公表時期・公表方法】 9月下旬～11月中旬 各学科・専攻から次年度授業計画の情報収集 12月中旬～1月下旬 シラバス入稿 2月上～2月下旬 シラバス第三者確認 3月上旬 シラバス公開(Web)</p>	
授業計画書の公表方法	https://g-port.univ.gakushuin.ac.jp/campusweb_gk/top.do (シラバス検索)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業の担当教員は、事前にシラバスで示した成績評価の方法・基準に基づき、評価を行っている。成績評価項目は、「学期末試験(第1学期)」「学年末試験(第2学期)」「中間テスト」「レポート」「小テスト」「平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)」「その他」となり、パーセンテージの合計が100%となるように設定している。それぞれの評価方法・基準についてもシラバスに示している。 シラバスで示した基準を満たしているにもかかわらず、学生が成績評価を不服とする場合は、成績評価の再確認を実施し、その内容を学生に回答している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、成績評価の指標として GPA を導入している。 GPA の算出方法は以下のとおりとなる。</p> <p>分子：全期間の (4 ×S (秀) の評価単位数 + 3 ×A (優) の評価単位数 + 2 ×B (良) の評価単位数 + 1 ×C (可) の評価単位数) 分母：全期間の総履修登録単位数 (「F (不可)」の単位数を含む。「W (取消)」「T (認)」の単位数は含まない。) ※算出された数値の小数点以下第4 位を四捨五入して、第3位までの数値とする。</p> <p>GPA 等の成績データを管理している教務課より、学部等へデータを提供する仕組みがあり、学部等においては、提供された GPA データをもとに、各科目群によって構成される履修要件の検討等を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>履修要覧 (冊子) および大学ホームページ (学外者も閲覧可能) https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/post_11.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>全学的なディプロマポリシーを設定した上で、各学科、専攻毎に落とし込んだ同ポリシーを Web にて公開している。 また、ディプロマポリシーの公表と合わせて、履修要覧において各学科、専攻で定めた履修規定を公表し、ディプロマポリシーおよび履修規程に基づき、各学部教授会、各研究科委員会で適切な卒業・修了認定を実施している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/introduction/policy/edu_policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	学習院大学
設置者名	学校法人学習院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.gakushuin.ac.jp/ad/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	https://www.gakushuin.ac.jp/ad/zaimu/
財産目録	https://www.gakushuin.ac.jp/ad/zaimu/
事業報告書	https://www.gakushuin.ac.jp/ad/kikaku/mokuhyo/houkoku.html
監事による監査報告(書)	https://www.gakushuin.ac.jp/ad/zaimu/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:2019年度)
公表方法: https://www.gakushuin.ac.jp/ad/kikaku/mokuhyo/houkoku.html	
中長期計画(名称:学習院未来計画2021)	対象年度:2017~2021年度)
公表方法: https://www.gakushuin.ac.jp/ad/kikaku/mokuhyo/keikaku.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/effort/evaluation.html>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/effort/evaluation.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/introduction/policy/edu_policy.html ）
（概要） 法学部における教育の目的は、法と政治を中心とする専門分野を深く掘り下げながら、できるだけ広い視野で現代社会の諸現象・諸問題を把握・分析する高度な能力を養うことにある。すなわち、温かい人間性を涵養しつつ、たえず真理を追求する気持ちを失わずに、自分で問題を発見し、検討し、適切な判断ができる能力を持った人材を、少人数教育を通して育成する。 ※各学科の教育研究上の目的は、リンク先を参照のこと。
卒業の認定に関する方針（公表方法：同上）
（概要） 法学部では、各学科の履修規定に即して必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、広い視野で現代社会の諸現象・諸問題を把握・分析する高度な能力を身につけていると判断した場合に、学士の学位を授与します。なお、この方針に基づく各学科において修得すべき能力は、各学科で別に定めます。 ※各学科の卒業認定・学位授与の方針は、リンク先を参照のこと。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：同上）
（概要） 法学部では、法学部の想定する広い視野で現代社会の諸現象・諸問題を把握・分析する高度な能力が身につくように、選択必修科目、選択科目、自由科目を設けており、それぞれの種類に応じ、必要とされる単位数を履修するカリキュラムを編成し実施します。なお、この方針に基づく各学科における教育内容、教育方法、教育評価については、各学科で別に定めます。 ※各学科の教育課程編成・実施の方針は、リンク先を参照のこと。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：同上）
（概要） 法学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、学科ごとに掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。 ※各学科の入学者受入れの方針は、リンク先を参照のこと。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/introduction/policy/edu_policy.html ）
（概要） 経済学部は、現代社会が直面する国内及び海外の様々な経済・経営問題を主体的に捉え、自ら調べ、解決する能力及びそのための豊かな創造力を持ち、かつ、高い倫理性を備えた人材を育成する。 ※各学科の教育研究上の目的は、リンク先を参照のこと。
卒業の認定に関する方針（公表方法：同上）

<p>(概要)</p> <p>経済学部では、各学科の履修規定に即して必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、経済・経営の分野に関する専門的教養を身につけ、基本的な研究手法を会得していると判断した場合に、学士の学位を授与します。なお、この方針に基づく各学科において修得すべき能力は、各学科で別に定めます。</p> <p>※各学科の卒業認定・学位授与の方針は、リンク先を参照のこと。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：同上）</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるための教育課程として、経済・経営の各分野において、主に1年次に入門演習や基礎科目、2～4年次に専門応用科目、演習や特殊講義というように、段階的に学問体系が身につくようカリキュラムを編成し、講義・演習を適切に組み合わせた授業を行います。また、各学科の専門科目だけではなく、経済学部や大学全体の共通科目をフレキシブルに履修できるカリキュラムを編成します。なお、この方針に基づく各学科における教育内容、教育方法、教育評価については、各学科で別に定めます。</p> <p>※各学科の教育課程編成・実施の方針は、リンク先を参照のこと。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：同上）</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、学科ごとに掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。</p> <p>※各学科の入学者受入れの方針は、リンク先を参照のこと。</p>

<p>学部等名 文学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/introduction/policy/edu_policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部の行う教育の目標は、人文科学諸分野の研究内容を理解し、研究方法を取得した学生自らが、人文科学研究の創造を行うところにある。文学部各学科で文化創造の経験をさせることによって、社会の一員として、社会全体の文化を考え、文化を支え、文化を創造する担い手を育てることを目的とする。</p> <p>※各学科の教育研究上の目的は、リンク先を参照のこと。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：同上）</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部では、各学科の履修規定に即して必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、最終学年に卒業論文（学科によって卒業研究・卒業翻訳・卒業演習でも可能）に合格するとともに、各分野に関する専門的教養を身につけ、基本的な研究手法を会得していると判断した場合に、学士の学位を授与します。なお、この方針に基づく各学科において修得すべき能力は、各学科で別に定めます。</p> <p>※各学科の卒業認定・学位授与の方針は、リンク先を参照のこと。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：同上）</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるための教育課程として、主に1年次に専門への導入としての基礎演習や概論を配置し、2～3年次の専門演習と特殊講義を経て、4年次には卒業論文の執筆や卒業研究・卒業翻訳・卒業演習に取り組むというように、段階的に学問体系が身につくようカリキュラムを編成し、講義・演習を適切に組み合わせた授業を行います。また、各学科の専門科目だけではなく、文学部や大学全体の共通科目をフレキシブルに履修できるカリキュラムを編成します。なお、この方針に基づく各学科における教育内容、教育方法、教育評価については、各学科で別に定めます。</p>

※各学科の教育課程編成・実施の方針は、リンク先を参照のこと。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：同上）
<p>（概要）</p> <p>文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、学科ごとに掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。</p> <p>※各学科の入学受入れの方針は、リンク先を参照のこと。</p>

学部等名 理学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/introduction/policy/edu_policy.html）</p> <p>（概要）</p> <p>理学部は、教育においては、物事の根本を論理的・実証的に分析・考察する能力、その結果を総合し実地に活かす技能、考えや知識を他人に的確に伝える技術を備えた人材を育成する。研究においては、教育及び社会との関わりに最大限配慮しつつ、科学の発展に本質的な形で寄与することを目指す。</p> <p>※各学科の教育研究上の目的は、リンク先を参照のこと。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：同上）
<p>（概要）</p> <p>理学部では、各学科の履修規定に即して必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たし、各々の専攻分野の基本的な知識を身につけるとともに、卒業研究において本格的な研究の一端を体験し、学士にふさわしい十分な知識、探求能力、応用力を身につけていると判断した場合に、学士の学位を授与します。なお、この方針に基づく各学科において修得すべき能力は、各学科で別に定めます。</p> <p>※各学科の卒業認定・学位授与の方針は、リンク先を参照のこと。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：同上）
<p>（概要）</p> <p>理学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるための教育課程として、必修科目、選択科目、自由科目を体系的に編成し、講義・演習・実験を適切に組み合わせた授業を行います。なお、この方針に基づく各学科における教育内容、教育方法、教育評価については、各学科で別に定めます。</p> <p>※各学科の教育課程編成・実施の方針は、リンク先を参照のこと。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法：同上）
<p>（概要）</p> <p>理学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、学科ごとに掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。</p> <p>※各学科の入学受入れの方針は、リンク先を参照のこと。</p>

学部等名 国際社会科学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/introduction/policy/edu_policy.html）</p> <p>（概要）</p> <p>国際社会科学部は、広い視野から国際的な発想ができることを活かして、国際的なビジネスで活躍できる人材を育成することを基本の目的とする。社会科学と語学教育を融合させたカリキュラムにより、グローバルな問題を理解し探究するための社会科学的な基礎学力を育み、また、それを活かしてグローバル環境において活躍できるコミュニケーション能力を育むことを目指す。研究においては、国際間の違いが、経済的・社会的な活動に大きな影響を持っていることを、社会を分析する様々な視点から理解することで、諸問題への解決策を考えることを目指す。</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：同上）
<p>（概要）</p> <p>国際社会科学部は、必要な修業年限を満たし、履修規定に即して必要な単位を修得した者に対して、国際的なビジネスの場で活躍するために必要な語学力を習得し、国際社会の分野に関する専門的教養を身につけ、基本的な研究手法を会得しているものと認め、学位を授与する。具体的には、以下のような目的で設定されたカリキュラムを履修し、所定の単位を修得した者に学位を授与する。①多様な国際社会の課題に対して興味を持ち、社会科学の手法を使って分析する方法を学ぶことで、複雑な国際社会に対応できるスキルと教養を身につける。②国際社会で活動するために必要な語学力を習得し、それを国際的なビジネスの場で活用するため、論理的思考・問題解決能力の涵養と発表・議論する能力の向上を目指す。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：同上）
<p>（概要）</p> <p>国際社会科学部では、英語教育と社会科学を融合させたカリキュラムにより、実践的な英語運用力を高め、国際社会の仕組みを社会科学の手法で理解し、課題解決策を考え、発表や議論する力を養成する。コミュニケーション力と課題解決力を身につけることで、卒業後に国際的なビジネスの場で活躍できる人材となることを目指している。英語運用力の養成は、4年間を通して、英語科目と社会科学の専門科目（講義）によって向上させる。英語科目はCLIL（＝Content and Language Integrated Learning／内容・言語統合型学習）の手法で実践的な英語運用力を高める。社会科学の専門科目（講義）も学年の進行に応じて英語の利用頻度を増やす。卒業までには、英語だけを使って専門科目（講義）を履修する語学力を身につける。社会科学の教育においては、国際社会の仕組みを理解したうえで、国際社会の課題について、どのように調べたらよいか、そして、どのようにして解決策を考えていけばよいかを学ぶ。具体的には、専門科目（講義）により、法学・経済学・経営学・地域研究・社会学といった社会科学を体系的に学ぶ。それと並行して1年次の専門科目（演習）では、基礎的な社会科学の手法を使い、国際社会の現象や課題を調べる。3年次の専門科目（演習）および4年次の卒業論文では、それまで学習した社会科学の手法を使い、データを活用して様々な視点から分析し、課題の解決策を考え、発表や議論する力を養成する。海外研修においては、語学力の向上と多様性の理解を促進し、異文化の環境で順応する力を身につけさせる。帰国後の授業では、海外研修の経験を将来にわたってどのように活用するかを考える。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法：同上）
<p>（概要）</p> <p>国際社会科学部は、国際的に活躍したいという気持ちを持った学生を受け入れ、世界のいろいろな国の出身者と協力して働くことができるような人材、そして、海外でのビジネスに積極的に応じる能力を身につけた人材を輩出することで、人類の福祉に貢献することを目指しています。複雑な国際社会で活躍するためには、その仕組みを理解することが必要です。そのために、国際社会科学部では、法学・経済学・経営学・地域研究・社会学といった社会科学の考え方と手法を適用して、広い視野から国際社会の問題や現象を分析し理解する力を身につけることを目指しています。また、自らの考えがまとまったら、それを相手に伝えるコミュニケーション能力も国際社会で活躍するうえでは不可欠です。国際社会科学部では、英語を使って、情報をやり取りする力を身につけることも目標としています。</p> <p>国際社会科学部は、グローバル化する現代で、積極的に国際的な環境に身を置いて活躍の場を見つけたいと考えているチャレンジ精神のある人に、特に向いています。国際社会科学部では、国際社会の制度や歴史といった基本的な知識を基に、論理的に分析し、データを用いて現状の把握や仮説の検証を行います。そして、分析結果を使って国際的な経済社会で発生する様々な課題への解決策を考えます。そこで、国際社会科学部を志望する人たちには、社会科の科目に加えて、数学など高校時代には幅広くさまざまな科目を広く積極的に履修することを期待します。また、テレビ・新聞・書籍・インターネットなどで発信されている国際社会の多様な話題に関心を持ち、自らの考えや意見をまとめられる力を身につけておくことも期待します。英語に関しては、使うことができるようになることを重視していますので、高校時代から英語にふれる時間を十分に取ることを期待します。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/about/introduction/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
法学部	—	40人	2人	人	人	人	42人
経済学部	—	36人	4人	人	人	人	40人
文学部	—	68人	11人	1人	10人	人	90人
理学部	—	29人	3人	人	30人	人	62人
国際社会科学部	—	12人	6人	人	人	人	18人
大学院	—	人	人	人	2人	人	2人
法務研究科	—	14人	人	人	人	人	14人
スポーツ・健康科学センター	—	4人	人	1人	人	人	5人
計算機センター	—	3人	人	人	6人	人	9人
外国語教育研究センター	—	9人	3人	人	人	人	12人
附置研究所	—	1人	1人	人	3人	人	5人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		769人				769人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://gr-info.univ.gakushuin.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	480人	481人	100%	1,920人	2,058人	107%	若干名	0人
経済学部	500人	521人	104%	2,000人	2,370人	118%	若干名	0人
文学部	675人	695人	103%	2,700人	2,985人	110%	若干名※1	5人
理学部	210人	209人	99%	840人	899人	107%	若干名※2	0人
国際社会科学部	200人	213人	106%	800人	874人	109%	－人	－人
合計	2,065人	2,119人	102%	8,260人	9,186人	111%	若干名	5人

(備考)
※1. 教育学科は除く。 ※2. 生命科学科は除く。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	516人 (100%)	10人 (1.9%)	432人 (83.7%)	74人 (14.4%)
経済学部	544人 (100%)	6人 (1.1%)	474人 (87.1%)	64人 (11.8%)
文学部	647人 (100%)	42人 (6.5%)	527人 (81.4%)	78人 (12.1%)
理学部	223人 (100%)	79人 (35.4%)	120人 (53.8%)	24人 (10.8%)
合計	1,930人 (100%)	137人 (7.1%)	1,553人 (80.5%)	240人 (12.4%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
学習院大学大学院、東京工業大学大学院、東京大学大学院、一橋大学大学院、北海道大学大学院
東京23特別区人事委員会、(株)りそなホールディングス、(株)三菱UFJ銀行、(株)みずほフ
ィナンシャルグループ、東京都教育委員会

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	527人 (100%)	454人 (86.2%)	64人 (12.1%)	9人 (1.7%)	人 (%)
経済学部	588人 (100%)	499人 (84.9%)	68人 (11.5%)	21人 (3.6%)	人 (%)
文学部	688人 (100%)	562人 (81.7%)	104人 (15.1%)	22人 (3.2%)	人 (%)
理学部	217人 (100%)	179人 (82.5%)	31人 (14.3%)	7人 (3.2%)	人 (%)
合計	2,020人 (100%)	1,694人 (83.9%)	267人 (13.2%)	59人 (2.9%)	人 (%)
(備考) 入学者数の経済学部のうち2名は、理学部から転部したため、卒業した学部へ+2名を計上している。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>Web上でシラバスにて公開している。シラバスには「授業概要」「到達目標」「授業内容」「授業方法」「準備学習」「成績評価の方法・基準」「課題等に対するフィードバック」等の項目が含まれており、学生が授業の詳細情報を入手できるようにしている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
全学的なディプロマポリシーを設定した上で、各学科、専攻毎に落とし込んだ同ポリシーを Web にて公開している。				
また、ディプロマポリシーの公表と合わせて、履修要覧において各学科、専攻で定めた履修規定を公表し、ディプロマポリシーおよび履修規程に基づき、各学部教授会、各研究科委員会で適切な卒業・修了認定を実施している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法学科	124 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	政治学科	132 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
経済学部	経済学科	124 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	経営学科	124 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
文学部	哲学科	130 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	史学科	134 単位	Ⓢ・無	— 単位
	日本語日本文学科	130 / 131 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	英語英米文化学科	126 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	ドイツ語圏文化学科	126 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	フランス語圏文化学科	130 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	心理学科	130 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	教育学科	136 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
理学部	物理学科	126 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	化学科	127 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	数学科	126 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
	生命科学科	126 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
国際社会科学部	国際社会科学科	124 単位	Ⓢ・無	年間 48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.gakushuin.ac.jp/mejiro.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法学科	746,000 円	200,000 円	280,000 円	
	政治学科	746,000 円	200,000 円	280,000 円	
経済学部	経済学科	746,000 円	200,000 円	280,000 円	
	経営学科	746,000 円	200,000 円	280,000 円	
文学部	哲学科	830,000 円	200,000 円	270,000 円	
	史学科	830,000 円	200,000 円	270,000 円	
	日本語日本文学科	830,000 円	200,000 円	270,000 円	
	英語英米文化学科	830,000 円	200,000 円	270,000 円	
	ドイツ語圏文化学科	830,000 円	200,000 円	270,000 円	
	フランス語圏文化学科	830,000 円	200,000 円	270,000 円	
	心理学科	830,000 円	200,000 円	300,000 円	
理学部	教育学科	830,000 円	200,000 円	300,000 円	
	物理学科	1,144,000 円	200,000 円	410,000 円	
	化学科	1,144,000 円	200,000 円	410,000 円	
	数学科	1,144,000 円	200,000 円	330,000 円	
国際社会科学部	生命科学科	1,144,000 円	200,000 円	410,000 円	
	国際社会科学科	965,000 円	200,000 円	270,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 新入生に対しては、教務課・各学科事務室等が各種ガイダンスを行う。修学上の困難を抱える学生については、学生センター学生課・学生センター教務課・ラーニングサポートセンター・学生相談室等が、個々の学生の状況に応じて支援している。また、全学生に対してオフィスアワーを公開しているため、学生個人が教員と相談できる情報を提供している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 社会や企業の求める人材を常に考え、それに対応したキャリア・就職支援プログラムを実施、就職セミナーでは「講演型」から「議論型」に転換し「自ら考える力・伝える力・聴く力」を養うことに注力している。そのほか、多彩なミニセミナーの開催や学生同士の情報交換の場の提供など、学生のニーズにも迅速かつ柔軟に対応できる体制を目指している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活における健康管理等についてハンドブック作成し、新入学生へ配付 ・ 学生生活の手引へ健康に関する情報発信 ・ 救命講習会の開催 ・ 薬物乱用防止について講演会 ・ 健康診断時所見のある学生へ学校医面談指導 ・ 障害のある学生へ健康診断時個別配慮 (誘導等)

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.univ.gakushuin.ac.jp/
--